

変えてみよう 生き方・働き方

# 仕事 と 生活 の グッドバランスで みんないきいきハッピー

～「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に  
関する市民意識調査」から見えてくるもの～



平成24年  
天理市

天理市では、「女だから」「男だから」という性別が理由で、生き方を決めつけられたり、生きづらかったりするのではなく、一人ひとりが個性と能力を発揮して、自分の意志でやりたいことがやれる、男女共同参画社会の実現をめざしています。

男女共同参画社会を実現するためには、市民一人ひとりがその重要性について理解し、実際の行動に移していくことが大切です。

このリーフレットを通して、身近なことから始めてみませんか。

## 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)って何?

みなさんは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存じでしょうか?

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)とは、働く老若男女が、仕事、家庭生活、地域活動、個人の自己啓発など様々な活動を、他人を犠牲にすることなく、自ら希望するバランスでできる状態のことをいいます。

## あなたのバランスはどうですか? してみましよう。

- 残業することはめったにない
- 代休や有給休暇は積極的に取れている
- 職場には育児休暇や介護休暇を取りやすい雰囲気がある
- 自分がいなくても今の業務が進むようになっている
- 家事はみんなで協力してやっている
- 家族の友達の名前はよく知っている
- 地域の役割やお祭りなどのイベントには積極的に参加する
- 近所には顔見知りが何人かいる
- 仕事関係以外の友人や知り合いがいる
- 休日を一緒に過ごす友人がいる
- 夢中になれる趣味がある
- 朝の目覚めはよい方だ
- 休養のための時間は確保できている

希望する働き方はできていますか? 家庭や地域の活動に関わっていますか? 学習や娯楽の時間は取れていますか? 疲労をためたりせず、心身ともに健康ですか?

チェックの数が多いほど、自分らしいバランスのとれた生活を送れているといえるでしょうが、現実の生活はどうでしょう。

さあ、ページを開いて、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する市民意識調査」(以下、「市民意識調査」という)を通して、市民のみなさんの状況を見てみましょう。

## 「市民意識調査」の概要

- **調査の目的**：仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を中心に、男女共同参画に関する市民の実態・意識を把握し、今後の男女共同参画施策の基礎資料とする
- **調査対象**：住民基本台帳から無作為抽出した満20歳以上の男女市民各1,500人
- **調査方法**：郵送による調査票の配布および回収
- **調査期間**：平成23年9月14日～10月3日（督促はがき1回送付）
- **有効回収数**：1,299人（有効回収率 43.3%）
- **調査内容**：仕事に関することについて、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について、子育てに関する意識について、男女共同参画について など

## 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)について

### 仕事も家庭も地域・プライベートも大切にしたいけれど、現実には仕事の優先度が増す

共働きの男女に生活の優先度をたずねたところ、希望では男女ともに、仕事や家庭生活、地域・プライベートの複数を優先したいとする割合が半数を超えています。しかし、現実には、男女ともに「仕事優先」の割合が増えて、特に男性の場合は47%と、希望と現実にギャップのあることがわかります。

図1. 「仕事」「家庭生活」「地域・プライベート」の優先度

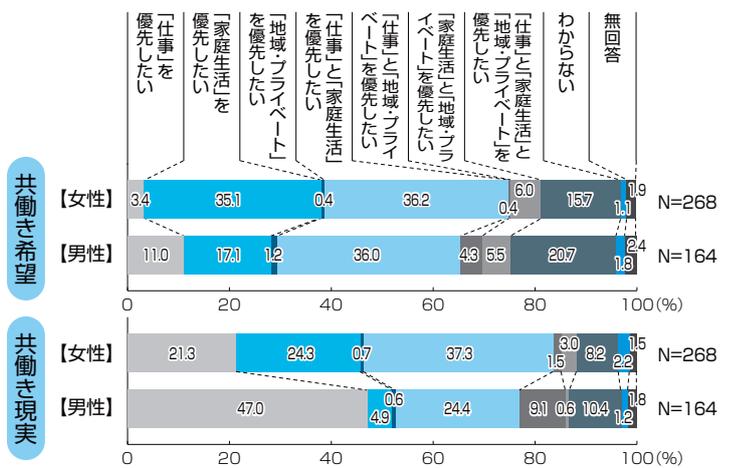
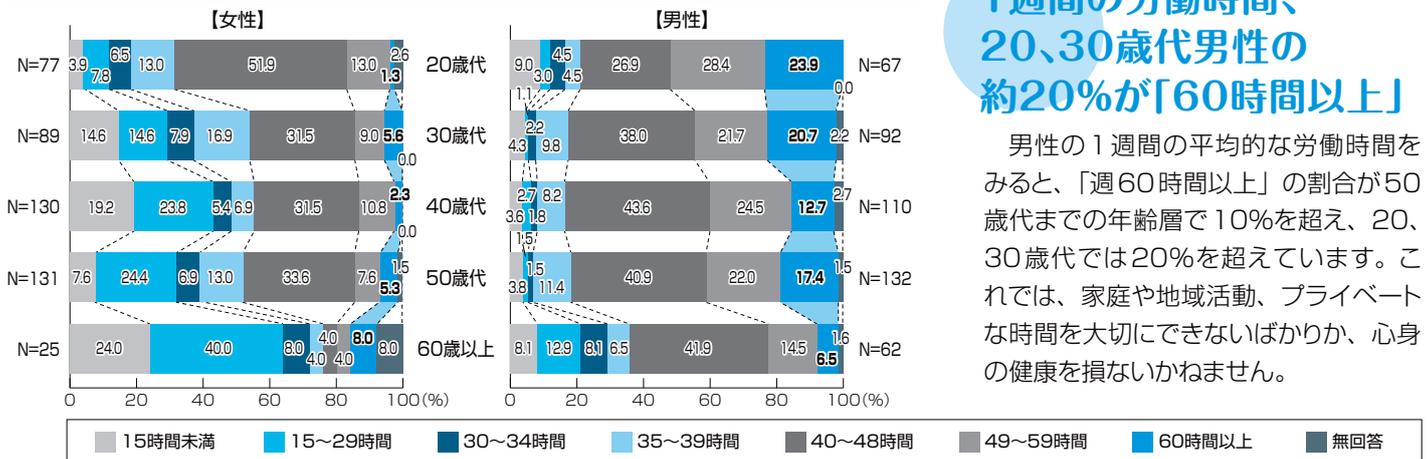


図2. 年代別・1週間の平均的な労働時間



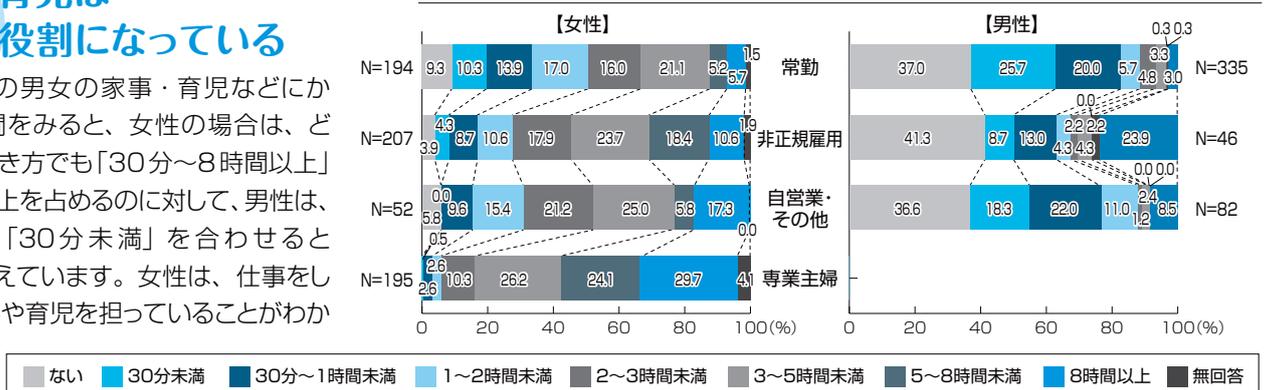
### 1週間の労働時間、20、30歳代男性の約20%が「60時間以上」

男性の1週間の平均的な労働時間をみると、「週60時間以上」の割合が50歳代までの年齢層で10%を超え、20、30歳代では20%を超えています。これでは、家庭や地域活動、プライベートな時間を大切にできないばかりか、心身の健康を損ないかねません。

### 家事や育児は女性の役割になっている

「平日」の男女の家事・育児などにかかわる時間をみると、女性の場合は、どのような働き方でも「30分～8時間以上」が70%以上を占めるのに対して、男性は、「ない」と「30分未満」を合わせると50%を超えています。女性は、仕事をしながら家事や育児を担っていることがわかります。

図3. 職業別 家事・育児などにかかわる1日あたりの平均的な時間(平日)



## 初職よりも環境が整っている職場を選んでいる

現在働いている男女に、現職と初職との職場環境についてたずねたところ、女性の場合は、全ての項目で、男性の場合は、「男性は育児や介護の休暇を取得できない、または取得しにくい雰囲気がある(あった)」を除く項目で、初職より条件整備がされています。企業の環境整備への取組が進んだことと、男女労働者がより働きやすい職場を選んでいることが推察できます。

図4. 職場環境の現職と初職の比較(現在働いている人)

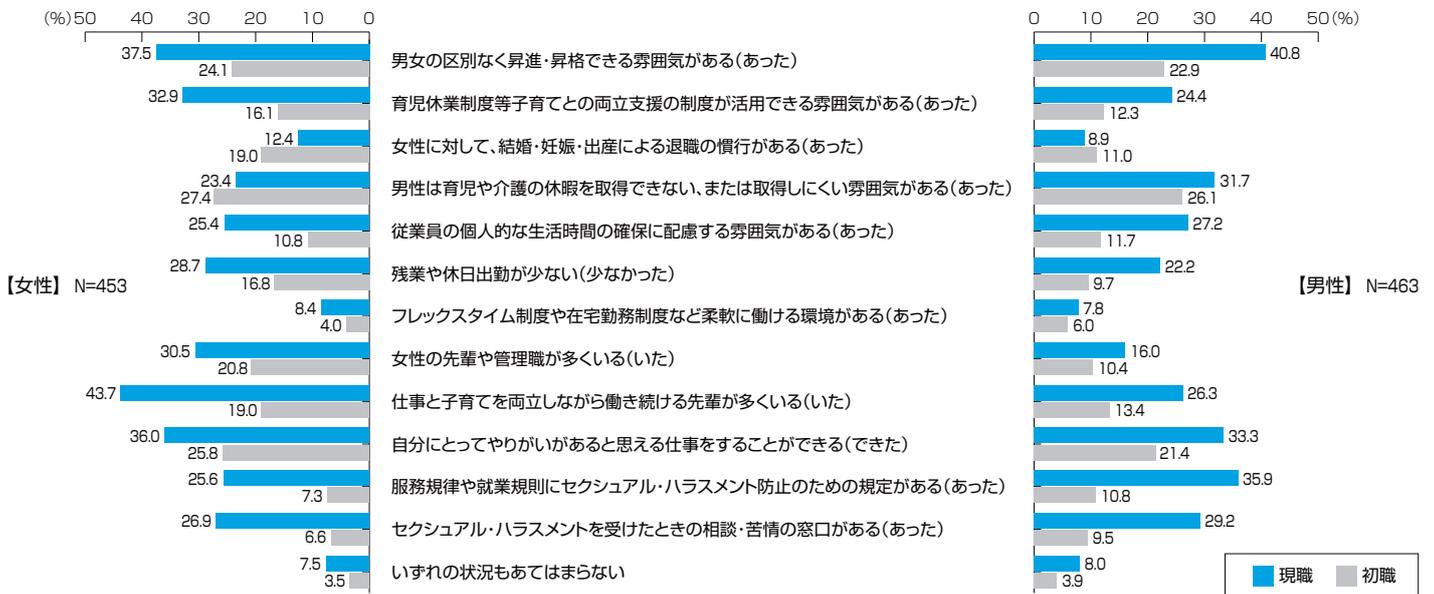
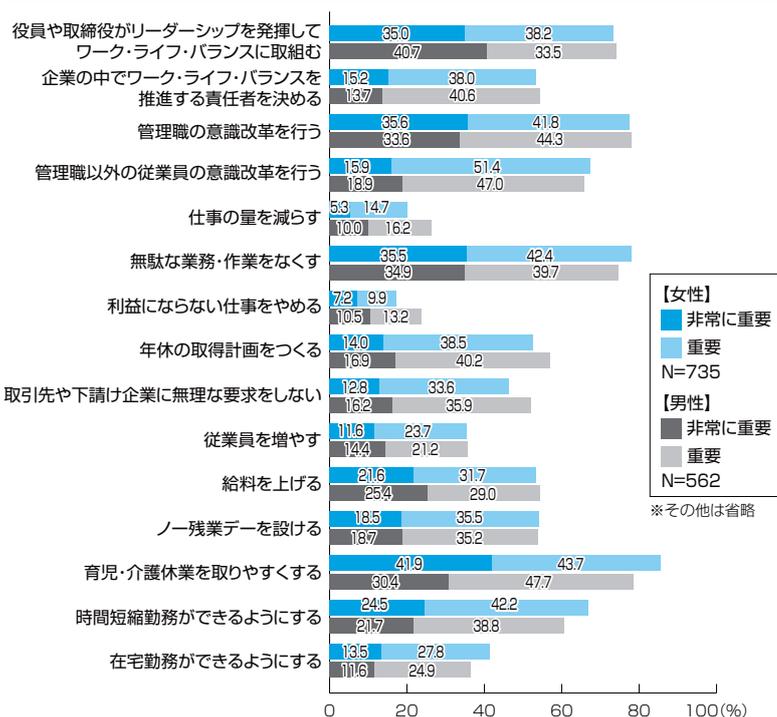


図5. ワーク・ライフ・バランスが実現した社会に近づくために必要な取組とは



## ワーク・ライフ・バランスを実現するために必要なのは、企業のリーダーシップと制度の充実

「非常に重要」とする割合が高い項目からみて、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)を実現するための条件は、「企業のトップがリーダーシップを発揮すること」、「育児・介護休業を取りやすくする」といった企業としての取組とともに、「無駄な業務・作業をなくす」という労働者自らも取組めることが重要視されています。

### グラフの見方

- 百分比 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位までを表示しています。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがあります。
- 図表にある「N」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「N」を 100.0% として表しています。

## 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)は、男女がいきいきと暮らすためのキーワード

近年の少子高齢化の進行や労働力人口の減少傾向、内外の経済競争が激しさを増す中、企業は多様な人材の能力発揮や一人ひとりの生産性の高い働き方を求めています。しかし、仕事と子育ての両立が難しく、せっかくやる気も能力もあるのにやむを得ず会社を退職した女性は少なくありません。

一方、地域では、つながりが薄れている中で、老若男女誰もが地域の担い手として、子育てや介護、地域活動などにかかわることが重要になっています。最近では、PTA 活動にも参加するイクメン派男性も増えています。

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)をはかり、会社以外にも自分の居場所を見つけることは、生活にゆとりと豊かさをもたらします。

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)は、各家庭にとっても、企業、地域社会にとっても大切な課題なのです。

# 男女共同参画について

## 固定的な性別役割分担意識は男性に高い

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」などのように、性別によって役割を固定した考え方を固定的な性別役割分担意識といいます。その考え方について『そう思わない』の割合が女性は55.0%で半数を超えているのに対して、男性は43.4%。『そう思う』割合は、女性より男性の方が若干高くなっています。

※「そう思う」=「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計  
 「そう思わない」=「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計

図6. 固定的な性別役割分担意識についての考え

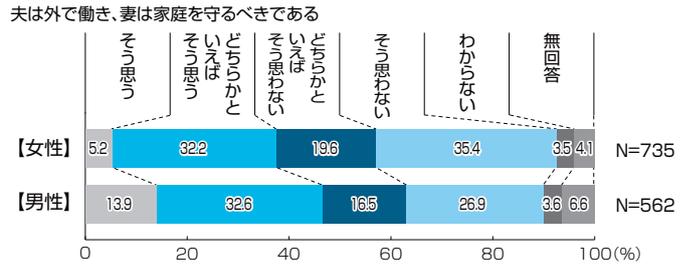
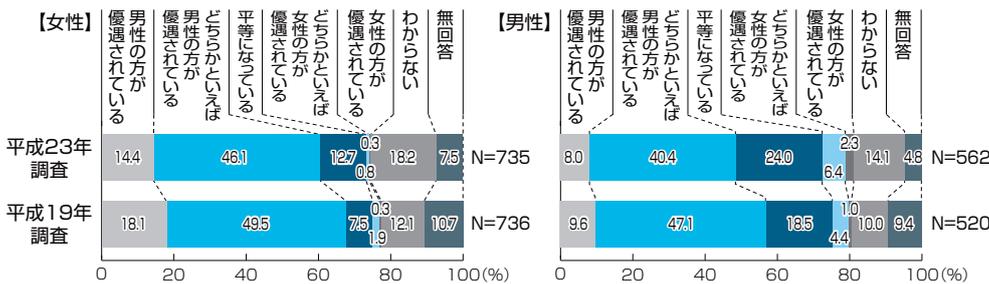


図7. 「社会全体」での男女の地位の平等感比較



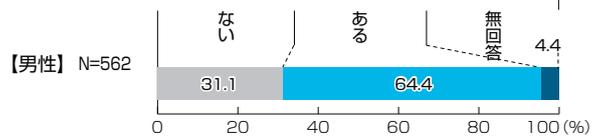
## まだまだ低い男女の地位の平等感

平成19年調査と今回の市民意識調査とで比較すると、「平等になっている」の割合は男女ともに前回よりも増えています。しかし、『男性優遇』の割合は依然として高いままです。

## 「男もつらい」と感じる男性は60%を超えている

回答者の60%以上が「男もつらい」と感じ、その内容を見ると、「仕事の責任が大きい、仕事ができても当たり前と言われる」や「男だからとがんばることを強要される」、「自分のやりたい仕事を自由に選べないことがある」など、「男」であることのしほりへの割合が高くなっています。

図8. 「男もつらい」と感じることの有無



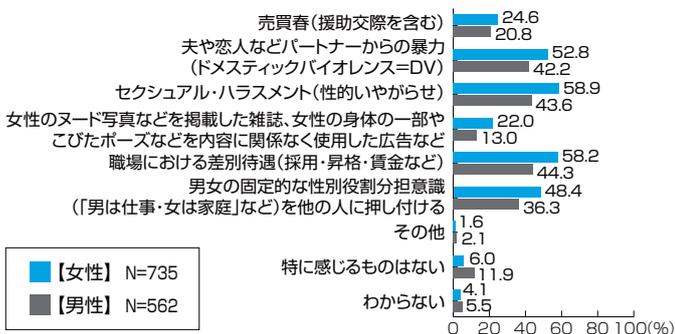
※お気軽にご相談下さい。男女共同参画プラザ(かがやきプラザ)

こころの電話相談 ~男性専門相談員による相談~

●日時 毎月第4木曜日 18:00~21:00 ●相談専用電話 0743-62-8801 (祝日などの関係で日程の変更があります)



図9. 女性の人権が尊重されていないと感じること



## 女性の約半数が、DV、セクハラ、職場の差別待遇、固定的な性別役割分担意識を人権の問題と捉えている

女性の人権が尊重されていないと感じることについてたずねたところ、全ての項目で女性の回答割合が男性を上回っており、「セクシュアル・ハラスメント」、「職場における差別待遇」、「男女の固定的な性別役割分担意識」、「夫や恋人などパートナーからの暴力」ではその差が10ポイント以上になっています。

## めざそう、男女共同参画のまち 天理市

本市が進めている男女共同参画社会とは、女性も男性もいきいきと自分らしく個性と能力が発揮できる社会です。

しかし、市民意識調査の結果をみると、現実には、性別を理由に役割を固定した考え方が存在し、社会全体としては男性が優遇されていると感じている市民の割合が、女性では約60%、男性では約50%です。また、若い男性ほど生きづらさを感じています。女性の人権が尊重されていない様々なことがらについては、男性の認識は高くありません。

【第2次天理市男女共同参画社会づくり計画~かがやきプラン21~】に基づき、男性にとっても女性にとっても暮らしやすい、ずっと住み続けたい天理市を実現するために、市民、事業所、地域、行政が協力しながら、男女がお互いを対等に認め合いながら、仕事にも家庭や地域活動にも思う存分力を発揮できる社会をつくっていきましょう。

# 企業のみなさんへ

## ワーク・ライフ・バランスは経営戦略の重要な柱：「明日への投資」

ワーク・ライフ・バランスに対応した経営をすることで企業の競争力につながります。

### 取組のポイント!!

#### ●トップの意識改革・リーダーシップ

##### 両立支援や柔軟な働き方として…

- 育児・介護休業制度の利用しやすい環境整備
- 情報提供等の復職支援
- 短時間勤務、時差出勤
- 保育料の補助などの経済的支援 など

#### ●経営戦略への位置づけ

##### 業務運営の見直しとして…

- 休暇取得促進
- 長時間労働の見直し
- 業務の効率化
- ワーク・ライフ・バランスの取組についての効果的な発信による人材確保 など

#### 従業員の心身の健康保持

#### ●中小企業だからこそ、やりやすい

単に「制度」をつくることが目的ではありません。大企業に比べて、経営者と従業員の間や、従業員間のコミュニケーションが比較的とれやすく、従業員に合わせた柔軟で迅速な対応ができる、という利点があります。中小企業のもつ「スピード感」と「一体感」を活かしましょう。

例えば、男女従業員に育休が必要になった等、具体的に必要性が生じた時が始め時。従業員とともに、制度に縛られない柔軟な取組で、会社も従業員もともに幸せになる方法をみつけましょう。

▶参考：厚生労働省「カエル・ジャパン通信（メルマガ）」

<http://www8.cao.go.jp/wlb/e-mailmagazine/index.html>

### 仕事も生活も充実できて、経営者と従業員が互いにメリットのある関係に!

#### 会社

- 優秀な人材が辞めなくて済む
- 従業員の健康リスクが減少でき、長時間労働に係るコストも削減が可能になる
- 従業員がいきいきと働き、会社の生産性が高まる

#### お互いにメリット のある関係

#### 従業員

- 子育て・介護をしながら働くことができる
- メリハリのある仕事で心身ともに健康に生活できる
- 会社が求める人間像が明確で、それに添ったキャリア形成を進めることができる

▶参考資料：内閣府「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）ホームページ」

中小企業庁「中小企業ワーク・ライフ・バランス対応経営マニュアル ～強い会社になるために～」



## 仕事と生活のグッドバランスで みんないきいきハッピー

～「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する市民意識調査」から見えてくるもの～

発行：天理市市民部男女共同参画課  
〒632-0035 天理市守目堂町89  
電話 0743-68-2666  
発行年月 平成24年3月